

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600089		
法人名	医療法人社団早川内科医院		
事業所名	グループホームなみおと		
所在地	山口県山陽小野田市大字小野田1147-13		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町受理日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

二階窓一面に眺めるキラビーチ・海と船・夕日も鑑賞でき室内は白をベースにし、静かで落着きのある明るい環境の施設です。周辺には季節を感じることのできる竜王山。春には一面桜・秋には紅葉など楽しんで頂き 利用者様と散歩・ドライブなどを楽しんでいます。グループホームならではのゆったりとした雰囲気の中で、ご本人のできる事をしていただき楽しく笑顔で過ごしていただいております。医師・看護師と常に連携を取り、体調管理も行い安心してすごしていただけるように勤めております。また地域の方々との親交も深く、夏祭り・敬老会・餅つきなどなど施設に来ていただき子供会・婦人部・町内会の方々にいつもお世話になっております。利用者様の気持ちに寄り添い、出来ることを楽しく行っていただき張りを持って生活していただけるように毎日こころがけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の夏祭りや盆踊り大会、敬老会、餅つき大会、文化祭(作品出展)に参加されている他、事業所主催の夏祭りには地元住民の協力を得ておられ、事業所の敬老会や餅つきには子供会のメンバーと触れ合っておられるなど、年間を通して、事業所全体として地域住民とのふれあいを数多く持たれ、毎年継続しておられ、地域に開かれた施設として受け入れられています。こうした地域との交流の積み重ねが、地域防災会議への参画や、事業所の災害時の住民との協力体制の構築につながっています。利用者の介護度が進んでいく中でも、本人の思いや意向を把握できるように、日常の関わりの中で利用者の担当職員が中心となって把握に努めておられます。事業所独自の個別対応記録を活用され、最低でも月1回は利用者から要望のあった外出や外食などの希望が実現できるように取り組んでおられます把握が困難な利用者に対しては、本人の生活歴や嗜好、趣味、家族からの意見を参考にされ、実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は毎日朝礼時に唱和し、理念を理解した上で実践につなげている。理念は事務所・各部署に掲示し広報誌にも記載している	法人の運営理念を柱とし、「笑顔でやさしい声かけをします。」「できることを見だし、ハリのある生活になるよう支援します。」という事業所独自の理念を新しく作成し、毎日職員全員で唱和している。月1回の職員会議では、理念について話し合いをし、日々のケアに活かすよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域での祭り・餅つき・敬老会・合同避難訓練等に参加させていただいています。また施設内での催し物(夏祭り・敬老会・クリスマス会・紙芝居・餅つきなど)は地域の方々が率先して参加し、楽しく行っています。小学生の慰問もありご利用者様への暖かい絵はがきなどのプレゼントもいただいております	自治会に加入し、管理者は総会に出席している。利用者は地域の夏祭りや盆踊り大会、敬老会、餅つきに参加している。事業所主催の夏祭りには、地域住民の協力もあり、事業所での敬老会や餅つきには子供会のメンバーとの交流がある。地元の小学生の来訪(ゲーム・歌・コーラス)やボランティアも年間を通して来訪があり、舞踊、フラダンス、三味線、銭太鼓、ハーモニカ、コーラス、紙芝居等の内容で、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を行い、認知症の方の思いを理解できるように努め、認知症サポーター事業所登録をしています。地域の会合時も出席し情報の提供に努めております。気軽に相談も受けております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受け、職員が中心となり職員会議などで評価事項を確認し常に利用者様の思いに添えるように努めています	管理者は職員会議で評価の意義を説明している。自己評価をつするための書類を職員全員に配布し記入してもらい、職員会議で話し合ってまとめている。評価を通して、職員全員が両ユニットの利用者を知る機会を設けることや利用者一人ひとりの思いの把握に努めることなど、目標達成計画を立てて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1か月ごとの利用状況・緊急対応・行事・活動報告を行い、防災に関係することなどは指導・アドバイスを受けサービスの向上に努めています	会議は2か月に1回開催している。メンバーに変化はないが、今年は町内会以外の自治会長(6人)は毎月1人あて順番での参加を依頼している。利用者の状況報告と行事報告、ヒヤリハット・事故の報告、外部評価への取り組み状況等について報告し、話し合っている。災害時での地域住民の協力体制等について意見交換をし、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査員や市役所担当者も頻会に来設されその際には、施設の様子をお伝えするなど常に情報交換を行っている	市の担当課とは、管理者を中心に日頃から交流の機会があり、直接出向いたり、電話で相互に相談や情報交換を行い、協力関係を築いている。市主催の地域ケア会議での情報交換、ケアマネ連絡協議会の研修会や事例検討会に参加し連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な拘束だけではなく、言葉遣い・対応なども常に考慮しストレスを感じることを無いように、身体拘束に関する研修・職員会議にて拘束の理解を深めると共に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。利用者様の思いを尊重するケアに努めています	身体拘束については内部研修の接遇や虐待防止の勉強会で学習し、職員全員で理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が職員に直接指導している。玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待に関する知識を学び、利用者様の表情や言動で虐待行為がないか注意を払い、職員自身にもストレスをためないように配慮しています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する理解を職員全員で持てるように話し合いを行い、成年後見制度などの研修も行っています		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には利用者様・ご家族様に分かりやすい説明を行い、不安な点や疑問点について理解して頂けるように時間を十分にとり行っております		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の説明時に意見・苦情に対する受け付け体制の説明も伏せて行い、ご理解いただいております。その他玄関へ意見箱設置や、電話・送迎時・連絡帳にてご意見をいただき、早期解決に努めています	契約時に苦情、相談の受付体制や第三者委員、処理手続きを家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議、事業所主催の行事の際に、家族から意見や要望などを聞いている。利用者を担当する職員による家族への手紙の送付や面会時には家族に利用者の現状を細かに伝えて、家族からの意見が出やすい環境づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングなどで職員の意見要望を聞き、代表者へ反映している。また現場に出て職員とコミュニケーションをとり、環境改善に取り組んでいます	月1回の職員会議や朝の申し送り時に職員の意見や要望を聞く機会を設けている。管理者は、日常の業務の中で職員とコミュニケーションを図り、職員からの意見を聞いている。職員の意見から利用者によりきをもつてケアできるように業務内容や手順、記録様式の改善等に取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの技術・特技を知り面談を行い適切な評価をしています。また環境整備を行い備品の充実など働きやすい職場作りに取り組んでいます		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの時間を利用して各職員がテーマに沿った研究発表の場を設けています。外部研修に行った職員はミーティングで発表し他の職員と内容を共有している	外部研修は職員に情報をつたえ、職員の希望や段階に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供している。参加者は復命報告をし、全職員が共有している。内部研修は月1回のミーティング時に、業者に講師を依頼しての感染症講座や救急救命講習、テーマ別に行う介護技術の勉強会等を実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学・外部研修に参加した際にも他施設職員との情報交換・話し合いの場を持ち、サービスの向上に努めています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来設していただき不安に思うことをお聞きし、詳しく説明を行い安心していただけるように対応している		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも同様に不安に思うことや、要望をしっかりと聞きし、それぞれの利用者様にあったケアを実践している		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご本人・家族様にどのようにかわり支援していくかしっかりと見極め、安心して任せていただけるように努めています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで歩んでこられた生活の経験・知恵を教わったりご本人ができることを把握しお手伝いしていただいている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来設していただき、なみおとでの様子を見ていただきお話の時間をゆつくりとり、またその際にも気づきや要望を常にお聞きしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の敬老会・墓参り・パーマ・外食・買い物などなど個人の要望に耳を傾けて出来る限り対応していますまた親しい友人なども気軽に面会できるように対応しています	家族や親戚の人、知人の来訪がある他、買い物や敬老会、自宅へのドライブに出かけている。年賀状(代筆)や電話の取次ぎ、家族の協力を得ての墓参りや法事への出席、盆や正月の一時帰宅、買物、外食に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの思いや個性を把握し、集団で行うレクリエーションなどを通じて利用者様同士が協力し合い仲間意識を持っていただけるように職員間連携を取り支援しています		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、手紙や電話で様子を伺っております。関係者にも密に連絡を取り情報交換をしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当職員を決め、いつでも利用者様が相談しやすい環境づくりをし、利用者様の思いを尊重し出来る限り対応します。また月に何度かはご本人の希望思いなど聞き取り担当職員が個別に外出・外食会話などし楽しく過ごしていただいている	日常の関わりの中で、利用者を担当している職員を中心に、利用者の思いや希望の把握に努めている。事業所独自の個別対応記録を活用し、最低月1回は、利用者から要望のあった外出や外食などの希望が実現できるように取り組んでいる。把握が困難な利用者に対しては、本人の生活歴や嗜好、趣味、家族からの意見を参考に本人本意で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしなどアセスメントを時間をかけ、町内や民生委員の方々とも密に連絡を取り今まで通り穏やかに過ごしていただけるように、職員会議で話し合いを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、心身状態を把握し、利用者様一人一人の様子、何を求められているか表情にも気を配り意欲がわく生活になるように話し合っています		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様には担当があり、その方を中心に職員全体で介護計画を作成している(変化があるごとにまた月1回のミーティングの際)課題が生じた際はご家族・担当者・職員全体で検討しすぐに実行している	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心にケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者の思いや家族の意向、主治医、職員全員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。計画の評価は担当職員が毎月評価票にまとめて、全職員で検討している。6か月毎にモニタリングをして見直している他、利用者の状況に応じて、その都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は毎日個別にケアプランに沿った記録し変化あるときには詳しく記入し、申し送り簿などに記帳して職員全員が把握できるように努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々様子が変わることが多いために常に話し合い敏速で柔軟な対応ができるように努めています		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に登録し地域の方々の協力・地域資源・公共の催し(子ども会・夏祭り・敬老会・餅つき・防災訓練)などにも常に参加させていただいております		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当病院・他病院受診の際は、職員が同行し利用者が受けていた医療が今まで通り受けられるように支援しているその際家族へは受診の理由状態を詳しく伝え理解、了解していただいている	利用者や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科受診については、必要時と週1回の歯科の往診があり、その他は家族の協力を得て、事業所が受診支援をしている。受診後は、家族と職員が情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサイン測定を実施し、日々の測定値との差や発熱などの異常時、排便コントロールが正常に出来ているかリーダーから看護師・主治医に報告しそのつど指示を受けている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は書面を通して情報提供を行い情報の共有をしている。入院中は毎日お見舞いに行き状態の変化や表情など確認している 入院先の看護師にも「常に様子を伺っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去施設での安らかな看取りも行っており、職員も不安感を持たないように教育しております。また重度化する前から本人・家族様と終末期をどのように対応するかは話し合いを行い関係者と連絡を取り合い行っています	「利用者の重度化及び介護に関する指針」があり、契約時に家族に説明し、同意を得ている。重度化した場合には、早い段階から、利用者、家族、主治医、関係者と話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防署にお願いし、救急救命研修を行いマニュアルを所定のところに置き的確に対応できるようにし、ミーティングで利用者様の急変や事故発生にも応急手当が落ち着いて敏速に出来るように努めています	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、発生の都度すぐに話し合い、職員に回覧して共有している。毎月1回の職員会議で再度確認し、事故が重なる場合は要因分析を行い再発防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、消防署による救急救命講習の開催やミーティング時に看護師による緊急時の対応、誤嚥、転倒の応急処置の訓練を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年に2回5月12月に町内の方々と避難訓練を行っております。町内の防災会議にも参加し協力体制をとっております	年に2回(内1回は消防署の協力)昼夜間を想定した避難訓練や消火訓練等を地域住民(10名)の参加を得て実施している。事業所独自でも通報訓練を年2回実施し、自治会長が緊急連絡網のメンバーとして加入しているなど、地域との協力体制を築いている。管理者が地域の防災会議にも出席し避難経路の確認を行っている。飲料水、米、食品など1週間分の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が尊厳やプライバシーの確保について常に具体的に話し合いご利用者を尊敬の思いで接し丁寧な言葉遣いに心がけております。守秘義務も周知徹底しております	内部研修(接遇について)で学び、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日々の関わりの中で管理者は常に確認を行い、職員のプライバシーに関する意識の向上に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思い・意思を尊重し拒否ある際は無理強いせず、ゆっくりと納得いくまで待つ姿勢で接しております。希望されることがあれば出来るかぎり添えるように支援しております。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様とかかわり合いながら思いやその人らしさを大切にしながら本人のペースで楽しく過ごしていただけるように柔軟に対応しております		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らコーディネートされる方もおられ、困難な方は季節に沿った洋服を選び、整容していただきその際は必ず鏡の前でご本人に納得していただきます・洗濯もすべて支援しいつも清潔な洋服を着ていただいています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りの物を温かいものは温かく陶器の食器を使用し、食事を楽しんで頂けるように配膳しています。また好みを常に聞き取り御粥・肉・魚いろいろなメニューが選択できるようにしています。片づけなど利用者様にさせていただいております	三食とも法人の厨房からの配食で、栄養士の献立で、栄養バランスのとれた食事を提供している。利用者はトレイ拭き、台拭き、下膳などできることをしている。月に1回昼食づくりを行っており、利用者は職員と一緒に下ごしらえ(野菜の皮むき)をしている。季節の行事食(おせち、節句、敬老会、クリスマス会等)やおやつづくり(ゼリー、牛乳寒天、ホットケーキなど)、個別の外食(回転寿司、ケーキ屋、レストラン)、月に一度の喫茶(多種類の飲み物、ケーキ、クッキー等)など、食べることを楽しむことができるように工夫して、支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を配置し栄養バランスを考え献立表を作成しています。ご家族様にも理解していただけるように配布しています。また午前・午後・食事時などジュースやお茶などで水分が十分に摂取できるように支援してます		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、早期に口腔のケア指導して頂き、毎食後口腔ケア介助し、歯ブラシも個々の利用者様にあったものを提供しています		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄も利用者様のサインを見逃さないようにし、間隔などを把握できるように排泄表を作成し、おむつ対応の方も、日中は必ずトイレに誘導し心地よい排泄が出来るように努めています	排泄チェック表で利用者のパターンを把握し、時間を見はかりながら声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて毎日チェックし、排便のタイミングを把握しトイレ誘導行っています。自然に排便を促せるようにヨーグルトなども毎日用意し、水分や運動など促しトイレでは腹圧マッサージなど行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を聞きながら、ゆっくりと入浴できるように支援しています。プライバシーにも配慮し、個人入浴です。座位が保てない方は個別特浴やシャワーチェアなど使用し、のんびりと入浴されています	入浴は毎日、10時から12時までの間可能で、利用者の希望に合わせて午後でも対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状態によって、併設施設の特浴やシャワー浴、清拭、足浴にも対応している。入浴したくない人には、タイミングを見計らったり、時間をずらしたりし、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室のため、静かにゆっくりと休養が取れるように勤めています		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方説明書を職員がいつでも見ることが出来るように個人ファイルに入れて薬の目的副作用など職員全員が確認しています。薬の変更などは申し送り簿に記載しています		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑づくり・貼り絵・カラオケ・ボランティア訪問・なみおと全体レク(リハビリ体操・手芸教室・なみおと喫茶店・なみおと相談会)などなど利用者様が好きなことを好きな時間に参加できるように楽しく過ごしていただけるように努めていますまた洗濯たたみ干しなど楽しくしていただいています	食事の支度や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、プランター栽培(朝顔)、水やり、習字(書初め)や貼り絵、折り紙、紙粘土、壁画作り(だるま)、手芸、縫物、カルタ取り、トランプ、カラオケ、歌を歌う、脳トレ(計算ドリル、パズル)など、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々季節を感じていただけるように歩行の困難な方でも、車椅子等を利用しなるべく施設外への外出を心がけています	外気浴や近隣への散歩(パン屋、ガラス工房)、スーパーへの買物、季節の花見、(桜、コスモス等)、ドライブ(常盤公園、竜王山等)など、戸外に出られるように支援している。毎月、担当職員との個別外出も行なっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に応じてお金を所持したり買い物で自分で支払いができるように支援しています。紛失等ないように配慮もしています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご本人に直接電話していただき安心していただけるように支援します。また年賀状・暑中見舞いなど気軽に手紙を書いていただく支援もしています		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは全面ガラスでダイルームから海を眺めることができ、照明やカーテン・ソファなど明るい雰囲気です。洗面台もスペースを広くとり使いやすくトイレにはシャワーを設置し、車いすの方も対応できるようにしています。冷暖房にも常に配慮し、心地よくすごしていただけるように勤めています	二階の南側のガラス窓から一面に広がる青い海を眺めることができる。白を基調とした壁面や家具に囲まれた共用空間は、明るく広々としている。ゆったりとしたソファや食卓、椅子を配置し、テレビや畳のあるコーナーには季節の花を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。キッチン是对面式で、職員の働く姿が見え、生活感がある。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファで気の合う利用者様とおしゃべりしたり、テレビを視聴したり、ゆっくりと出来るしていただけるように 床スペースを広くとっています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や思い出の品を持参してもらい写真や工作品はインテリアとして飾り付けをしています担当者とともに整理整頓もこまめに行っています。	好みの寝具や使い慣れたタンス、鏡台、ソファ、イス、衣装を持ち込んで、壁には誕生日の写真や家族の写真、カレンダーを飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかったこと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室などには手摺を設置しその方が力を維持できるように職員が見守り・介助を行っています。また安易に福祉用具に頼らない介護を基に一人ひとりの安全に考慮し安心して過ごしていただけるように勤めています		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなみおと

作成日： 平成 27 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者が出来ることであっても、職員が行ってしまい、利用者の残存機能をしっかりと把握していない。	利用者様が何が出来るのか、残存機能をしっかりと職員会議で話し合い、急がずことなくゆっくりと待つ余裕を持ち介護する。	職員会議でケアプランに取り組み職員全員で取り組む	平成27年6月 ～ 平成28年5月
2		支援の際(トイレの声かけ・移乗・食事・口腔ケア他)まだまだ 介護者側の立場での支援が見られる。	認知症があるなしにかかわらず、全ての利用者様中心に、動作の説明・了解を得て、声かけ・支援する。	職員会議の際は、常に認知症ケアの研修を行い職員お互いに言葉づかいなど日々指摘しあう 理念に掲げ毎日唱和する	平成27年6月 ～ 平成28年5月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。